

広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業報告書

早期避難を促す防災教育 の開発と災害時子ども支 援体制の構築

広島文化学園大学学芸学部子ども学科 |

研究代表者：伊藤 駿

目次

はじめに.....	2
調査の概要.....	3
1. 災害時の協力体制に関する協定の締結.....	3
2. 災害の歴史・防災に関する調査.....	4
3. 防災教育授業の実施.....	5
4. 能登半島地震への緊急支援に関する報告会.....	5
学生の感想.....	7

はじめに

本報告書は2023年度「広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業」に採択された「早期避難を促す防災教育の開発と災害時子ども支援体制の構築」において得られた成果をまとめたものである。

また、本研究は昨年度同事業に採択された「避難を伴う災害時に子どもが抱える課題と必要な支援を明らかにする活動」の成果を踏まえたものであり、2年目の研究に位置付けられる。昨年度は広域都市圏の11市町村へ訪問し、災害時に子どもたちへの支援はどのようなものが想定されているのかということを明らかにした。詳しい報告は昨年度報告書をご覧いただきたいが、残念ながら災害時において子どもたちへの支援はほとんど想定されておらず、災害時の子ども支援体制の構築が急務であることが明らかになり、本研究の実施へとつながっていった。

本調査活動は広島文化学園大学学芸学部子ども学科の伊藤ゼミが中心となって行った。本学では2021年度の新型コロナウイルスの流行下に起こった佐賀県武雄市およびその周辺地域の豪雨災害に対して「遠隔ボランティア」を講じたり、2022年度からは「防災・災害支援プロジェクト」を発足させたりするなど、安心・安全なまちづくりに寄与するための取り組みを進めてきた。そうした中、災害時には子どもたちがより不利な立場に置かれやすいということに思い至り、子ども学科の学生として災害時の子どもたちの人権保障に向けてできることを検討していくこととなった。

最後になるが、本調査の実施を通して各市町村における災害時の子ども支援の充実が図られること、また調査に参加した学生たちが将来それぞれの現場で子どもたちの権利保障のために尽力してくれることを願っている。

研究代表者
広島文化学園大学
伊藤 駿

調査の概要

本年度の調査は、昨年度の調査時において災害時の子ども支援の必要性を強く認識しながらも、取り組みの改善が必要であると感じているとお話しいただいた広島県府中町と協働し実施した。特にカウンターパートとなってくださったのが、危機管理課の皆さんであり、大きく4点の活動に取り組んだ。第一に、研究機関である広島文化学園大学と広島県府中町との間で災害時の協力体制に関する協定を締結した。第二に、主にゼミの時間を活用し、府中町の災害の歴史、防災センター等の見学、防災ゲームの体験、改善提案に取り組んだ。第三に、これらの学習をもとにした防災教育授業の実施。第四に正月に発生した能登半島地震への緊急支援に関する報告会である。以下では、それぞれの内容について述べていく。

1. 災害時の協力体制に関する協定の締結

府中町内には大学がないが、その利便性の高さから広島市内の大学へ通学している学生は少なくない。実際に広島文化学園大学においても多くの学生が府中町に居住している。同時に災害時には、様々な場面でボランティアの力が必要となることは間違いない。こうした状況を踏まえ、災害時に速やかにボランティアを派遣する連携協定を締結することとした。協定は2023年7月19日に府中町役場において締結された。協定においては、先のボラン



ティア派遣に加え、平時からの防災活動での連携も含まれており、本補助事業のテーマでもある「安全・安心な暮らしの確保」に向けた取り組みの一環であると考えている。

2. 災害の歴史・防災に関する調査

府中町における防災・災害対応を考えていく上で、過去の災害について触れることは欠かせない。そこで学生たちが自身で府中町の災害について知る機会を設けた。また危機管理課との協議の中で、近隣地域の災害の歴史についても知った方が良いという助言をいただき、広島市にある「広島市総合防災センター」に足を運び、過去の災害について理解を深めた。

その上で、本事業の中心的課題である防災教育の開発に取り組んだ。防災教育では子どもたちの取り組みやすさを重視し、防災ゲームに注目し取り組むこととした。具体的に取り組んだ防災ゲームは「防災カードゲーム『シャッフル』」「防災カードゲーム『シャッフルプラス』」「防災すごろくゲーム『GURAGURA TOWN』」「防災すごろくゲーム『GURAGURA TOWN』」である。これらのゲーム全てを自身たちで体験し、教育実習などの経験をもとに授業でいかに実践していくのかということを実験的に学んでいった。



3. 防災教育授業の実施

上述の学習成果を発信するために府中町立中央小学校の協力を得て、5年生向けに防災教育の授業を実施した。同小学校もまた防災に力を入れて教育活動を行っていることから、単に本学の学生が授業を行うのではなく、小学生たちが取り組んできた活動についても発表をしてもらい、それに対してコメントを行うという形で実施した。

学生たちは府中町の災害の歴史に加えて、実際に子どもたちに防災ゲームを体験してもらい、その上でどういった改善をおこなったのかということを発表した。学生たちの感想は後述する通りであるが、実際に子ども向けにおこなってみると、より改善が必要であることを強く感じたようである。



4. 能登半島地震への緊急支援に関する報告会

事業開始時には想定していなかったが、令和6年1月1日に発生した能登半島地震の被災地において研究代表者の伊藤は緊急の子ども支援活動に取り組んでいる。伊藤は1月4日から被災地入りしており、当時からの道路状況、子どもの状況、避難所の実態などについて町役場職員に対して報告を行った。



学生の感想

1. 学生 A

今回の活動で防災教育について学ぶほか、防災ゲームの改善案を考える活動をしました。この活動を通して子どもたちの防災の知識の定着に防災ゲームは使えることが分かりました。今までの防災教育はインターネットや地域の人、教科書を通して調べたものをまとめて発表する、避難訓練をするというものだけに留まっていたと思います。そして被災した時に役に立つことを知ることは真面目で硬いイメージでした。

今回防災ゲームを使ってより楽しく防災を学ぶことができるようにするために効果的なものは何か考えることが出来ました。また府中中央小学校での研修会を通して今の子どもたちが防災に対してどんなことを学んでどう活動しているのか知ることが出来ました。

防災ゲームは種類やルール、目的が様々でそれぞれのゲームに良いところや他と違う特徴があり、新しい発見がありました。特にナマズの学校は実際に活用できる「状況に応じた道具の効果的な使い方」や、普段からストックしておくの良いものなど知ることが出来ました。他のゲームでは、避難生活をより良く過ごせるための工夫や、消火器や AED の使い方など手順、使用方法を知ることが出来ました。すごろくやカルタ、7 並べに似たルールで遊びながら取り組める防災ゲームは絵と活動を通して学べる教材だと思いました。

府中中央小学校の 5 年生の発表では、自分たちで町の危ないところを探し、ハザードマップを自作したり、地域の人や防災士の方からの話や自分たちで調べたことから学んだことを発表し、歌を作ったり手拍子等で楽しく防災を学んでいるように感じました。

その 5 年生の皆さんに防災の取り組みを知ってもらい、ゲームを体験してもらいました。ゲームに積極的に参加してもらい、事ができ興味を持って貰えたと思います。これからゲームの改善点からルール改善案だけでなく広島市総合防災センターで学んだことも組み込んで行けるよう取り組んでいきたいと思っています。

2. 学生 B

ゼミの活動の中で防災のこと、災害の歴史や防災施設といったものを調べたり、防災ゲームについて調べたりしました。特に防災ゲームに焦点を当てて実際に活用することができるようにルールの改善や内容の改善、より分かりやすくするための工夫など研究するための活動を行いました。

防災について、その中でも「ゲームで学ぶ防災」について学び、考え、研究を行ってきました。その中でやはり思ったことや感じたこととしては、楽しく学ぶことに関して視点を置くのならばいいものだと思いますが、実際に災害が起きた時について考えてみると実践的な能力が身につけているわけではないので、そうした実践で活躍できる能力、体験的な学習が必要だと思いました。実際ゲームの研究をやってみて、自分たちがやる時も楽しく活動することができたし、自分にどれだけの知識があるかどうかと言ったものを測る活動とし

てはいいと思いました。また今回防災教育に関しての研究していることを府中町立府中中央小学校の第5学年の皆さんに発表しました。発表の内容の中には、実際に5年生の皆さんにゲームの活動をしてもらいました。クイズになった途端、みんなの反応がとてもよかったので意欲付けにととても向いていますし、知識の確認としてとてもいい活動だと思います。ただもし起きたを考えるのと、起きてしまった時の心理的状況や状態は違うと思うので、身体で覚えることが必須になってくると考えます。ゲームで学ぶことに関しても実践が入ると良くなるのでは無いかと、とても思いました。また、今回の活動でゲームだけで終わらせると、論文にもあったようにあまり効果をはっきりしませんが、意欲は今回の活動で改めて実証されたので、ゲームで学ぶことへの可能性があると思いました。

3. 学生C

ゼミの活動の中で、防災教育で活用することができる防災ゲームや、防災ゲームのルールや内容の改善を行いました。この活動を通して、今までの防災教育では防災に関する講義や訓練などが一般的でしたが、防災ゲームを取り入れた防災教育が広まりつつあることを知りました。訓練や講義も大切だけれど、楽しく学ぶ活動を取り入れると子どもたちの防災への意欲が高まることを知りました。また、防災ゲームを教育の中に取り入れると、クイズや紙芝居などでイメージがしやすくなり、文章で伝えるよりも理解につながりやすいことが分かりました。防災は学校内だけでなく、家族や地域の方も意識や知識を持っておく必要があるので、幅広い年代の方々が共に楽しく学べる防災ゲームが必要になると感じました。府中町立府中中央小学校の第5学年の皆さんと防災に関する取り組みについて発表しました。その中で、実際に小学生に防災ゲームを体験してもらいました。思っていた以上に、小学生の反応がよく、改めて防災ゲームの活用することの大切さを学びました。災害が起こったときどうすればよいのかなど、ゲームを通して学び、そこから自分たちの住んでいる地域ではどのような災害が起こりやすく、どこにどのように避難すればよいのかなどにつなげていくと、より実用的な知識になると感じました。

これからの活動では、改良したルールや内容でゲームを行い、さらに改善する箇所を見つけ、よりよい防災ゲームにしていければと思います。また、広島市総合防災センターなどで地震体験や消火体験などの体験を行い、実際に災害が起こったときに身に付けておくとい知識を盛り込んでいければと思います。